



紙つぶて

富士山頂ではいまが研究活動の最盛期です。首都大学東京の加藤俊吾准教授のおかげで、私たちのNPOのホームページに、オキシダントと一酸化炭素の濃度が研究者向けに表示されるようになりました。オキシダントというと光化学オキシダントが有名ですが、ほとんどが酸素原子三個でできているオゾンのことです。

オゾンは酸素原子二個からなる酸素分子が太陽の光を受けてでき、同時に別の波長の光で分解する反応性の激しい物質です。生成と分解を繰り返して、上空の成層圏に存在します。これがおなじみのオゾン層で、強い紫外線から地球上の生命を守っています。一方、地表に近い対流圏でも自動車の排ガスなどの汚染大気からオゾンができます。

オキシダント

富士山頂は高いのでオゾン層の影響を受け、下からの汚染大気の影響もあります。そこで、加藤さんは排ガスに含まれる一酸化炭素を同時に測定して、上からと、下からの影響を分けています。オキシダントの測定で大気の動きなどが分かるので、大気化学観測の基本データになります。

無口な山男の加藤さんは毎年、観測の初めに登ってきて装置を動かし、データを仲間にも提供しており、このデータが始めるといよいよ夏の観測が始まったと実感できます。今後の研究のためには夏の二カ月だけでなく通年で観測し、大気汚染防止につなげたいというのが加藤さんたちの夢です。



（土器屋 由紀子）富士山測候所を活用する会理事